



LPIC レベル 2 の出題範囲改定 (Ver4.5) について

下記は、今後予告なく変更の可能性があります。

2017 年 2 月 13 日 (予定) より、日本語版の LPIC レベル 2 の出題範囲を改定します。

改定後の出題範囲のバージョンは、**Ver4.5** となります。

■ LPIC レベル 2 (Ver4.5) の出題範囲

<http://www.lpi.or.jp/lpic2/range/ver4.5/range201.shtml> (日本語)

<http://www.lpi.or.jp/lpic2/range/ver4.5/range202.shtml> (日本語)

https://wiki.lpi.org/wiki/LPIC-2_Objectives_V4.5 (英語)

■ 出題範囲変更のメリット

Linux OS は絶え間なく革新を続けています。LPI は、LPIC の認定者が最新のエンタープライズテクノロジーに習熟していることを保証するために、最新機能の導入に合わせて試験内容を随時更新しています。

LPIC レベル 2 Ver4.5 では、利用が拡大している systemd に加え、各種ユーティリティの追加、カーネルと主要なサーバソフトの新バージョンを取り入れました。

LPIC レベル 2 Ver4.5 の認定を保有することで、Linux 及びオープンソースに必要な最新のサーバ知識と技術力を有していることを証明できます。

■ 改定概要

最も重要な点として、LPIC レベル 2 Ver4.5 ではエンタープライズ環境で必要な下記の最新技術を取り入れました。

- systemd: この新しい init システムにより Linux の起動プロセスを高速化し、Linux 上のサービス管理を簡素化することが可能です。
- SSSD: SSSD(System Security Services Daemon)は複数ドメインの中央管理によりメンテナンス性を高め、また、認証データをキャッシュとして保持することで一時的なネットワーク障害時にも安定した認証サービスを提供する機能です。
- Btrfs: このファイルシステムはメタデータのミラーリング、スナップショットといった機能により Linux の高い障害耐性および障害復旧を実現し、また、Linux のストレージ管理を非常に柔軟にします。
- Sieve フィルタ: 受信メールの分類と優先順位付けができます。

さらに下記を通して認定者の技術力向上をはかりました。

- UEFI、NVMe、DKMS および IPv6 を広範に取り入れ、最新のハードウェアとネットワーク技術を採用して Linux を強化する能力。
- iotop、htop および ss などのツールを使用した高度なトラブルシューティング技術。
- すべてのネットワーキングサービスのための TLS の暗号化を用いたデータおよびプライバシーの保護技術。
- Apache 2.4、Samba 4.0、OpenLDAP および Dovecot などのソフトウェアの新規リリースに含まれた新機能に関する知識。

■ 201 試験の変更点

201 試験の Ver4.0 から Ver4.5 への変更点は下記の通りです。

- 200.1: iotop, htop, ss および iptraf を追加。
- 200.2: collectd を認知レベルに低減。Icinga2 を認知レベルで追加。
- 201.1: Linux Kernel 4.x および xz データ圧縮を包含。
- 201.2: Linux Kernel 4.x および DKMS を包含。
- 201.3: Linux Kernel 4.x を包含。
- 202.1: systemd を追加し、出題範囲のタイトル「SysV-init システムの起動をカスタマイズする」を「システムの起動をカスタマイズする」に変更。
- 202.2: UEFI および NVMe 起動の包含。
- 202.3: lilo を削除し、UEFI 起動を追加し、systemd-boot と U-Boot を認知レベルで追加。
- 203.1: systemd に mount unit を追加。
- 203.2: Btrfs の基本操作の追加 および 認知レベルで ZFS を追加。
- 203.3: systemd に automount unit を追加し、暗号化ファイルシステムの範囲として dm-crypt / LUKS を明確化。
- 204.1: (変更なし)
- 204.2: SSD と NVMe の設定を追加 および認知レベルで SAN を追加。
- 204.3: lvm.conf を追加。
- 205.1: iw を追加。
- 205.2: ss と ping6 を追加。
- 205.3: systemd, ip, ss, ping6, traceroute6 および mtr を追加。
- 206.1: xz を追加。
- 206.2: 認知レベルで Bareos を追加。
- 206.3: systemctl を追加。

■ 202 試験の変更点

202 試験の Ver4.0 から Ver4.5 への変更点は下記の通りです。

- 207.1: named-checkconf を追加し、権威 DNS サーバおよび再帰検索 DNS サーバが含まれることを明確化。
- 207.2: named-checkzone, named-compilezone および masterfile-format を追加。
- 207.3: 認知レベルで DANE と関連レコードを追加。
- 208: 出題範囲のタイトル「Web サービス」を誤解のないよう「HTTP サービス」に変更。
- 208.1: Apache HTTPD バージョン 2.4 を対象とし、認証のモジュールを明確化し、mod_access_compat を包含。
- 208.2: SNI および安全でないプロトコルと暗号の無効化を追加し、SSLCertificateChainFile を削除。
- 208.3: (変更なし)
- 208.4: (変更なし)
- 209.1: Samba 4 を含み、ワークグループの設定から、スタンドアロンと AD メンバーサーバに特化するよう更新。
- 209.2: (変更なし)
- 210.1: radvd を含む、DHCPv6 および IPv6 ルータ広告を認知レベルで追加し、ロギングの領域に systemd のジャーナリングを含む説明に変更。
- 210.2: 認証のための SSSD の基本機能を追加。

- 210.3: (変更なし)
- 210.4: OpenLDAP のディレクトリベースの設定を包含し、ファイルベースの設定を削除し、認知レベルの SSSD を削除(210.2 に移動)。
- 211.1: postfix 向け TLS の設定を追加。
- 211.2: procmail を認知レベルに低減し、Sieve、Dovecot の vacation 拡張 を追加し、出題範囲のタイトル「ローカルの電子メール配信を管理する」を「電子メール配信を管理する」に変更。
- 211.3: courier を認知レベルに低減し、dovecot 向けの TLS の設定を追加し、出題範囲のタイトル「リモートの電子メール配信を管理する」を「メールボックスアクセスを管理する」に変更。
- 212.1: IP フォワーディングが含まれることを明確化し、IPv6 (ULA, LLA および ip6tables)を追加。
- 212.2: (変更なし)
- 212.3: (変更なし)
- 212.4: (変更なし)
- 212.5: (変更なし)

■旧バージョン(Ver4.0)の受験期間延長

新バージョン(Ver4.5)リリース後の「6ヶ月間」は、旧バージョン(Ver4.0)を選択して受験することもできます。

また、バージョンに関係なく、201 試験と 202 試験に合格し、有意な LPIC レベル 1 を保有していれば、LPIC レベル 2 に認定されますが、この分野の技術の進展は著しいため、新バージョンでの受験をお勧めします。

なお、ピアソン VUE の受験予約ページには、各バージョンの試験は下記のように表示されます。

| 試験 | ピアソン VUE の予約画面での表示 | |
|-----------------|--------------------|--|
| | 試験番号 | 試験名 |
| 201 試験 (Ver4.5) | 201-450 | LPI Level 2 Exam 201, Part 1 of 2, version 4.5 |
| 202 試験 (Ver4.5) | 202-450 | LPI Level 2 Exam 202, Part 2 of 2, version 4.5 |
| 201 試験 (Ver4.0) | 201-400 | LPI Level 2 Exam 201, Part 1 of 2, version 4.0 |
| 202 試験 (Ver4.0) | 202-400 | LPI Level 2 Exam 202, Part 2 of 2, version 4.0 |

また、「Ver4.0」の試験と「Ver4.5」の試験は【同一科目】であり、通常の再受験ポリシーが適用されます。

よって、1 回目に「201-400」に不合格、2 回目に「201-450」に不合格となった場合は、3 回目の再受験は 2 回目の受験日の翌日から起算して 30 日目以降より可能となります。

以上